



～明確なめあてって？～

みなさん、今回は「めあて」をどのように設定するか。「授業の〇〇〇設計」を紹介しました。〇に当てはまる3文字は何かわかりますか？
さて、今回は「明確なめあて」というテーマで考えていこうと思います。『明確なめあて』とはずばり！

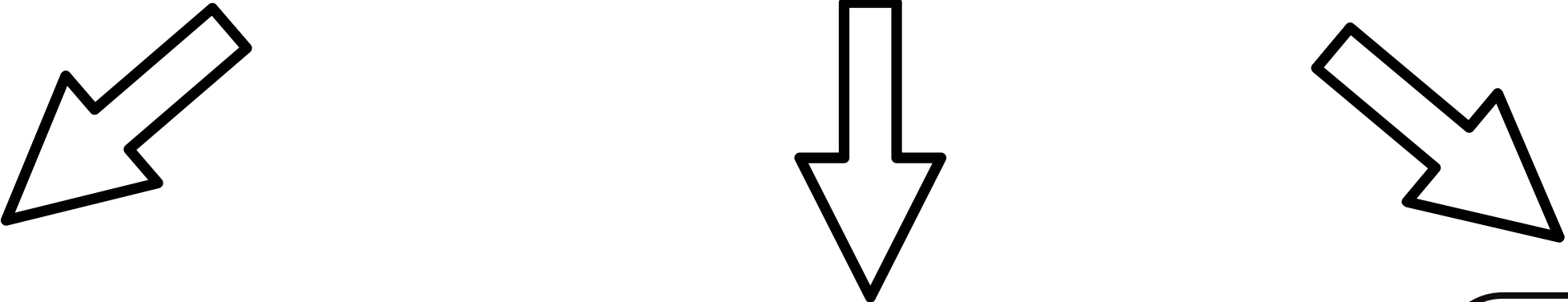
『明確なめあて』



『具体的な生徒の姿』である！

「めあて」というのは『単元や授業で子どもに習得させたい内容や育てたい能力やその到達点（～ができる・～を説明する、など）』を指します。つまり、**授業の最後に生徒がどのような姿になっているのか、具体的にイメージ（言語化）することが「明確なめあて」を考えるうえで大切**となります。

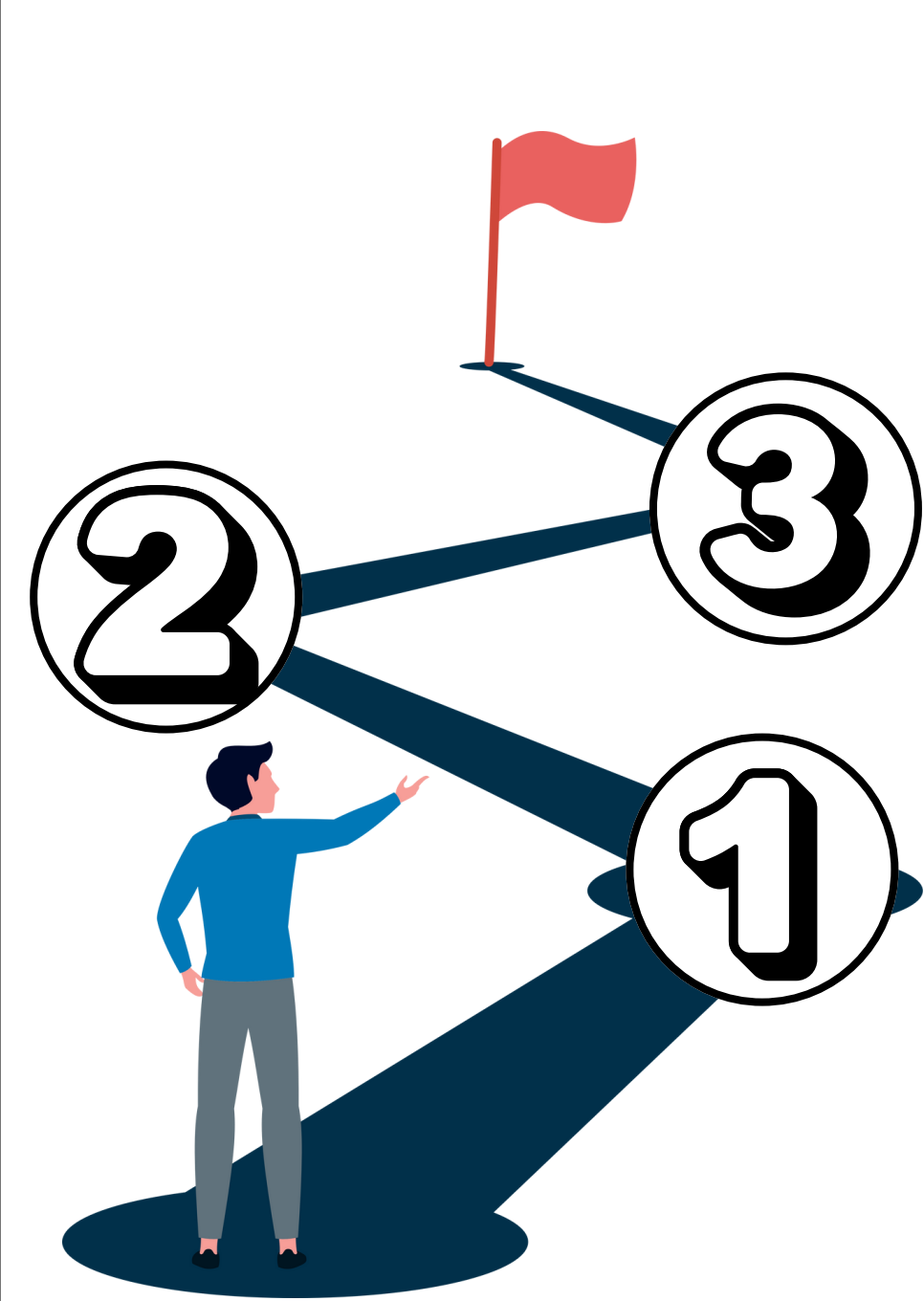
EXAMPLE めあて『オームの法則を理解することができる』



- ①『理解する』とは「公式を覚える」（記憶）
- ②『理解する』とは「電流・電圧・抵抗の相互関係を説明できる」（理解）
- ③『理解する』とは「オームの法則を生活場面で活かせる」（応用）

『理解する』を、どのような姿でイメージするかによって指導方法や評価方法が変わってくる！

『明確なめあて』 ロードマップ



- ① 単元（授業後）の具体的な生徒の姿を言語化する
- ② 生徒に期待する答え（評価物）を書いてみる
- ③ 『めあて』と『振り返り』との整合性を確認する

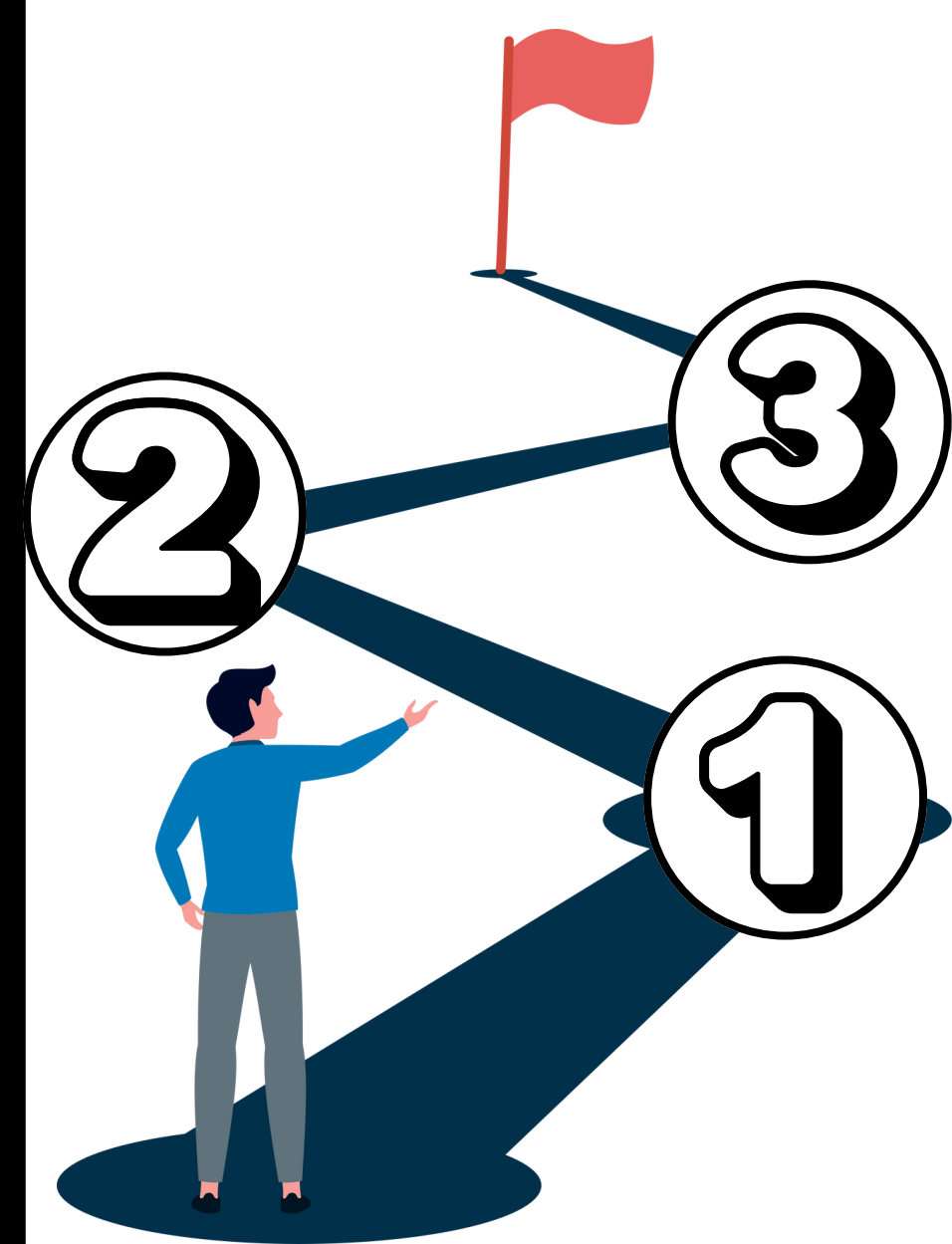
① 単元（授業後）の具体的な生徒の姿を言語化するめあてを「〇〇について、◇◇しながら、△△している」の形で具体的な姿を言語化する。

〇〇について・・・主な学習活動や学習対象
◇◇しながら・・・主要な資質・能力
△△している・・・生徒の行為や姿

EXAMPLE 【理科】電流の流れる水溶液について、何に関わっているか電子と水溶液を関連付けながら、まとめている
【国語】俳句の鑑賞文について形式に基づきながら書くことができる
【英語】日常生活での一場面について「〇〇が私を～（の状態）にする」という会話を用いながら、先生が場面を思い浮かべられるように演じる

フォーマットにのっとなって作成すると言語化しやすい！

『明確なめあて』 ロードマップ



- ① 単元（授業後）の具体的な生徒の姿を言語化する
- ② 生徒に期待する答え（評価物）を書いてみる
- ③ 『めあて』と『振り返り』との整合性を確認する

- ② 生徒に期待する答え（評価物）を書いてみる

EXAMPLE

めあて

『図形の移動について、対象移動・回転移動・平行移動を活用しながら、クッキーの生産ラインを作る』

重要!

ここで重要なことは、評価をどうするのか、考えることが大事です。

このめあての場合、評価を

- ① クッキー製造の生産ライン（ワークシート）
- ② どのように生産ラインを作ったのか、説明（記述）

として決め、教師が実際に取り組み（作成・実演して）『難易度』として適正化どうかを見極めましょう！

③

『めあて』と『振り返り』の整合性を確認する

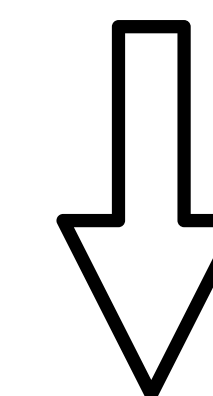
重要!

ここで単に「振り返り書いてねー」とだけ伝えてしまうと、生徒は様々なことを振り返る時間となり「この授業で何を学んだのか」という点が散って終わってしまいます。振り返りをする際には「〇〇という点について書く」と教師が書くべき視点を絞る支援が必要です。

EXAMPLE

めあて

『図形の移動について、対象移動・回転移動・平行移動を活用しながら、クッキーの生産ラインを作る』



振り返り

『移動の幅・回転の中心・対象の軸を意識して移動を使ってクッキーの生産ラインを作れたか』

ここで・・・

プラス1

ここでも教師が『生徒に書いてほしい振り返り』を想定し、作成しておくことで『実際に書いた振り返り』と比較することができ、授業についてPDCAサイクルを活用して授業改善することができます！